三次市の文化財2

三次の古墳

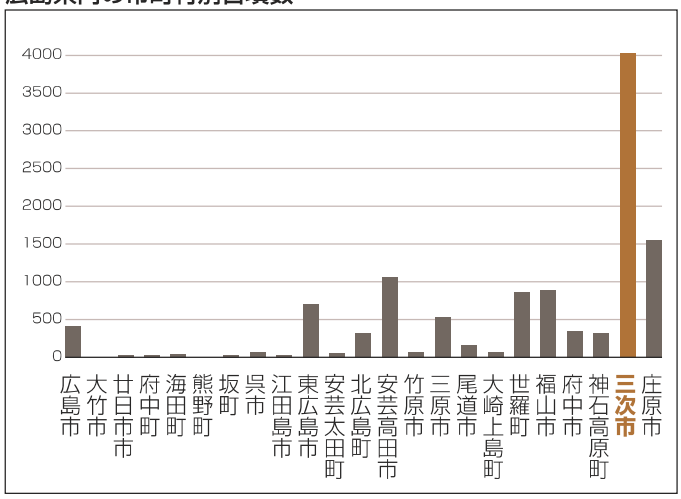
三次市教育委員会

はじめに

日本列島に古墳は約16万基確認されています（平成24年文化庁調べ）。この内、広島県には約1万2千基近く（全国第6位）があり、その約3分の1の約4000基余りが三次市にあり、全国的にも古墳が多い自治体の一つといえます。

順位	都道府県	古墳数
1	兵庫県	約18,900基
2	鳥取県	約13,500基
3	京都府	約13,100基
4	千葉県	約12,800基
5	岡山県	約11,800基
6	広島県	約11,300基
7	福岡県	約10,800基
8	奈良県	約9,700基
9	三重県	約7,000基
10	岐阜県	約5,200基

広島県内の市町村別古墳数



弥生時代 ～古墳が造られる前:四隅突出型墳丘墓の出現と展開～

弥生時代は水田稲作の導入とともに生活様式も大きく変わりました。墳墓としては、木の板を組み合わせた木棺墓、地面に墓穴を掘りそのまま埋葬する土壙墓、土器棺墓などがあります。中期以降になると溝等で区画された墓や盛土（墳丘）をもつ墓が造られるようになり、特定の人物（グループ）を埋葬した墓が造られます。土を盛り上げた墓は古墳と区別して墳丘墓と呼んでいます。墳丘墓は平面が方形や円形を基本として地域により形態が異なりました。

矢谷古墳（整備後）

四隅突出型墳丘墓とは

四隅突出型墳丘墓とは、方形台状の墳丘の四隅が突出した弥生時代の墳墓です。この墳墓は弥生時代中期後葉から弥生時代終末にかけて、中国山間地域の江の川流域、山陰・北陸地方で造られました。中国地方では墳丘の斜面に貼石や墳裾に石列が施されますが、北陸地方では石材が使用されていません。これまでに可能性のあるものも含めて約110基確認されており、最も古い（弥生時代中期後葉）ものは三次地域で確認されています。

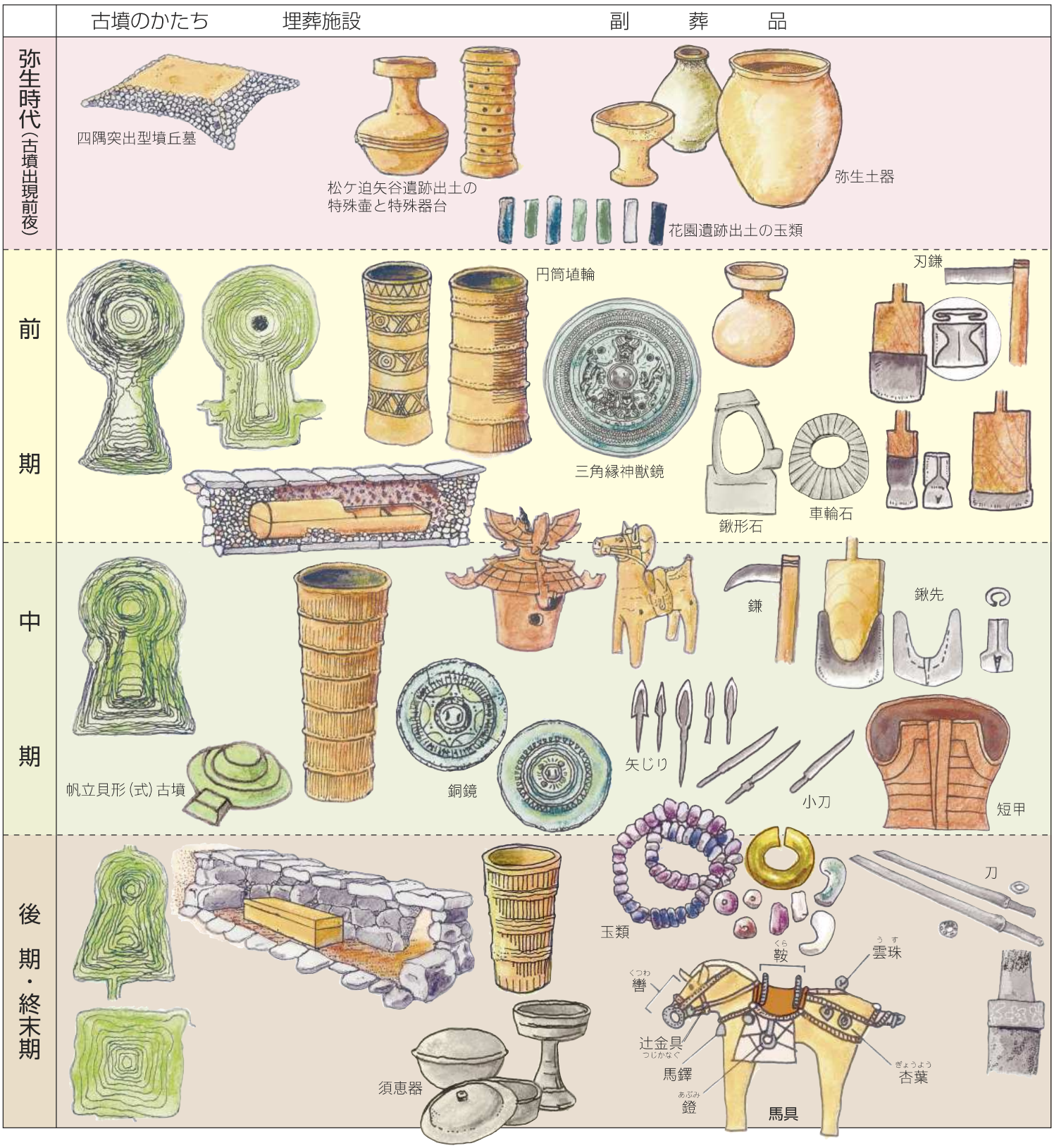
古墳時代

3世紀中頃から7世紀にかけて、日本列島の各地で多くの古墳が築造されたことから、古墳時代と呼ばれています。この時代は、日本列島各地の首長（王）が、ヤマトの政権（大王）と政治的な連合を結び、前方後円墳を頂点に同じ葬送儀礼を共有したと考えられ、古墳が単なる墓にとどまらず、政治や社会を維持するために大切な役割を果たしていたと考えられています。

古墳は周溝（濠）に囲まれ、葺石・埴輪などの外表施設を備えた墳丘（盛土）に、埋葬施設を設け、多種多様な副葬品とともに死者を埋葬したものです。古墳は、墳丘の形態や埋葬施設・副葬品等の変化を目安に、前期・中期・後期と終末期に区分されています。

三ツ城古墳（整備後）　東広島市

時代で変わる古墳と副葬品 ～三次市で出土したもの～



古墳のかたち

古墳の形態は、前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳や前方部の短い帆立貝形（式）古墳、特異な形の上円下方墳、八角墳などがあります。また、墳丘をもたない横穴墓なども古墳の仲間に含まれます。また、墳丘の斜面は石で覆われ（葺石）、墳丘頂部や斜面の平坦面、裾部には埴輪（円筒埴輪、形象埴輪）などが立て並べられました。

埋葬施設

墳丘頂部には、墓壙を掘って直接遺体を納めた木棺や石棺を埋めたり、木棺・石棺を納める竪穴式石室や粘土槨などの埋葬施設（竪穴系）が設けられました。時代が降ると木棺・石棺を安置する横穴式石室などの埋葬施設（横穴系）がつくられました。竪穴系の埋葬施設は原則として一人の死者を埋葬するのに対して、横穴系の埋葬施設は死者を次々と追送すること（複数埋葬）が可能でした。

副葬品

埋葬にあたっては、身につけた装飾品や日用品、あるいは埋葬儀礼に用いられた品々が、副葬品として納められました。こうした副葬品には、勾玉・管玉などの玉類や青銅製の鏡、鉄斧・ヤリガンナなどの農工具類、剣や甲などの鉄製武器・武具・馬具や供物を入れた土器類（土師器・須恵器）など、多種多様なものがありした。

日本の国の成り立ち

時代

旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 飛鳥

年代

●およそ二万五千年前ごろ

狩りや漁の暮らしが行われる
縄文土器や石器がつくられる

●およそ二三〇〇年前ごろ

弥生式土器がつくられる
コメづくりが大陸から伝わる

200

倭国乱れる(二七八年)

300

女王・卑弥呼が魏に使者を送る(二三九年)

【前　期】

古墳が造られ始める

400

【中期】

須恵器の生産が始まる
大仙(伝仁徳陵)古墳が造られる
ヤマト政権の統一が進み、各地に大型古墳が造られる

500

【後期】

仏教が伝来する(五三八年か五五二年?)
筑紫の国磐井の反乱(五二七年)

600

【終末期】

厩戸王(聖徳太子)が活躍する

700

白村江の戦い(六六三年)
乙巳の変(六四五年 大化の改新)

弥生墳丘墓から古墳へ

弥生時代中期後葉～後期
（古墳出現前 ～墳丘墓が造られる～）

弥生時代の後半になると日本列島に地域的なまとまり（クニ）や階層が生まれてきました。こうした中で特定の人物（グループ）を埋葬する墳丘墓が造られるようになり、三次地域では四隅突出型墳丘墓が造られました。

図番号	名　称	所在地	指定区分
1	花園遺跡	十日市町	国
2	矢谷古墳	東酒屋町	国
3	陣山墳墓群	四拾貫町・向江田町	国

移築復元した古墳

宮の本古墳

下山手第5号古墳

下山手第5号古墳　石棺

いろんな古墳があるね

古墳時代前期（古墳造りの始まり）

最古の前方後円墳は卑弥呼（ひみこ）の墓ともいわれる箸墓（はしはか）古墳（こふん）（奈良県）と考えられています。そして、前方後円墳が日本列島の各地に造られ始めますが、三次地域では前期の前方後円墳は明らかでありません。

図番号	名　称	所在地	指定区分
4	岩脇古墳	粟屋町	県
5	若宮古墳	十日市町	県

岩脇古墳

岩脇古墳　石室

若宮古墳

貴族の世の中　武士の世の中　明治からの世の中　戦後の新しい時代

奈良　平安　鎌倉　室町　安土桃山　江戸　明治　大正　昭和　平成

800　1100　1200　1300　1400　1500　1600　1800　1900　2000

奈良(平城京)に都が遷る(七一〇年)
京都(平安京)に都が遷る(七九四年)
日本霊異記が編さんされる
平清盛が太政大臣となる(一一六七年)
源頼朝が征夷大将軍となる(一一九二年)
元がせめてくる(一二七四年)
再び元がせめてくる(一二八一年)
元寇
足利尊氏が京都に幕府を開く(一三三八年)
南朝と北朝の対立が続く
応仁の乱が起こる(一四六七～七七年)
鉄砲が伝わる(一五四三年)
キリスト教が伝わる(一五四九年)
豊臣秀吉が全国を統一する(一五九〇年)
関ヶ原の戦いが起こる(一六〇〇年)
徳川家康が江戸に幕府を開く(一六〇三年)
伊能忠敬の日本地図が完成する(一八一二年)
ペリーが浦賀に来る(一八五三年)
明治維新 江戸を東京とする(一八六八年)
日清戦争はじまる(一八九四年)
日露戦争はじまる(一九〇四年)
第一次世界大戦はじまる(一九一四年)
日中戦争(一九三七～四五年)
太平洋戦争(一九四一～四五年)
広島・長崎に原爆が投下され敗戦(一九四五年)
日本国憲法が公布される(一九四六年)

古墳時代中期
（大型古墳の築造と古墳群の形成）

中期になると大仙古墳（伝仁徳陵古墳、墳丘長約486m）を始め大型古墳が造られ、全国的に古墳の規模が最大になるとともに、古墳の築造層が拡大し多くの古墳が造られます。三次地域でも糸井大塚古墳などの大型古墳、浄楽寺・七ッ塚古墳群のように古墳が群集して造られます。

図番号	名　称	所在地	指定区分
6	三玉大塚古墳	吉舎町	県
7	酒屋高塚古墳	西酒屋町	県
8	糸井大塚古墳	糸井町	県
9	八幡山第1号古墳	吉舎町	市

三玉大塚古墳出土鏡等

三玉大塚古墳（整備後）

古墳時代後期（群集墳の形成と横穴式石室の構築）

大型古墳の築造が衰退し、小規模古墳が群集して造られ（群集墳）、横穴式石室・横穴墓が普及し、古墳は家族墓としての性格が強くなります。三次地域でも小型古墳が多数造られ、6世紀後半になると横穴式石室が造られます。

古墳終末期（飛鳥時代）

新たな前方後円墳が造られなくなり、古墳時代も終わりを迎えます。方墳や八角墳などが造られ、小型の横穴式石室、横口式石槨などになります。三次地域でも方墳、幅の狭い小型の横穴式石室などが造られます。

図番号	名　称	所在地	指定区分
10	浄楽寺・七ッ塚古墳群	高杉町・小田幸町	国
11	弘法山大山古墳群	甲奴町	市
12	団子原（大柳）古墳群	君田町	市
13	長者原古墳	君田町	市
14	鏡ヶ宿古墳	布野町	市
15	川平古墳	布野町	市
16	大皇第1号古墳	作木町	市

弘法山大山古墳群

鏡ヶ宿古墳

三次地域の弥生時代墳墓と古墳

三次は中国地方のほぼ中央に位置し、古くから瀬戸内海沿岸部と日本海沿岸部や内陸各地を結ぶ交通・交易の要衝として栄え、多くの文化遺産が遺されています。

弥生時代中期後葉になると、地域色豊かな土器（塩町式土器）が作られます。また、四隅突出型墳丘墓が造られはじめ、その出現の地とも考えられています。四隅突出型墳丘墓の分布状況から山陰地方との政治的関係、人・モノの交流が考えられます。

古墳時代には、平地を望む丘陵上に多くの古墳が造られます。その多くは小型の円墳で、古墳群を形成しています。一方、大型の前方後円墳は確認されておらず、また、大型の古墳（首長墓）は帆立貝形古墳をしています。このあり方は全国的に稀な地域です。古墳の数（密集）や大型の帆立貝形古墳等、三次地域の古墳は特色のあるあり方をしています。

史跡「陣山墳墓群」

丘陵尾根線から東側斜面にかけて5基の四隅突出型墳丘墓が造られています。1号墓は最初に造られ、他の4基と主軸を異にしていますが、2～5号墓は直線状に並んでおり、企画性がみられます。明瞭な突出部をもつ3号墓をはじめ、5基の墳丘墓は貼石の手法や四隅の突出のあり方、墳丘規模、埋葬施設のあり方等に違いがみられます。どの墳墓からも塩町式土器が出土していることから、限られた期間に造られたと考えられます。この墳墓群は、この地域における首長の動向や四隅突出型墳丘墓の起源を探る上で重要な遺跡です。

陣山墳墓群全景

陣山墳墓群3号墓

陣山墳墓群出土塩町式土器

	規　模（m）	埋葬施設	出土遺物
1号墓	5.2×3.5	土壙（木棺）2基	土器（短頸壺、把手付壺）
2号墓	12.7×6.4	土壙（木棺）9基	土器（壺、甕、高杯）
3号墓	5×6.2	土壙（木棺）2基	土器（壺、甕）
4号墓	9×4.7	土壙（木棺）3基	土器（壺、甕）
5号墓	2.9×4.5	土壙（木棺）1基	土器（壺、甕）

史跡「花園遺跡」

三次市街地の南側丘陵の頂部から北の傾斜面にかけて、方形台状の墳墓と溝で区画された墳墓が検出された大墳墓群です。第1号台状墓は、この墳墓群の最高所にあり、東西32m、南北18mの長方形をなし、北辺には石材を高さ1.3mにわたって貼っています。第2号台状墓は東西14.1m、南北9mの長方形をなし、石材が貼られています。各墳墓には、多数の土壙、箱式石棺、石蓋土壙の埋葬施設があり、管玉、弥生土器、土師器が出土しています。墳墓の主体は弥生時代後半から古墳時代初頭と考えられており、古墳成立直前の様相を示す墳墓群（集団墓）です。

花園遺跡全景

花園遺跡第1号台状墓
（整備後）

史跡「矢谷古墳」

三次盆地南縁の丘陵上にあり、四隅突出型墳丘墓を2基あわせたような特異な形態をした四隅突出型墳丘墓で、全長18.5mの規模です。埋葬施設は木棺7基・箱式石棺2基・土壙など計11基があり、中心埋葬施設と考えられる最も大きい木棺からはガラス小玉・碧玉製管玉が出土し、他の埋葬施設からヤリガンナや刀子などが出土しています。また、墳丘上や周溝内から鼓形器台・壺・甕及び吉備（岡山県）南部が中心の特殊器台・特殊壷の土器類が出土しています。この墳丘墓は、古墳出現前における墳墓のあり方（葬送儀礼）を示すとともに、地域社会のあり方、吉備と出雲との交流関係を示す重要な墳墓です。

特殊壷・特殊器台
特殊器台は、埴輪の前身とされ、弥生土器の器台が大きく伸張し、葬送儀礼における供献用具として、特殊壷との組合せで独自の変化を遂げたものと考えられ、その分布は岡山県を中心に、広島県東部から山陰地方の一部に及んでいます。

矢谷古墳全景

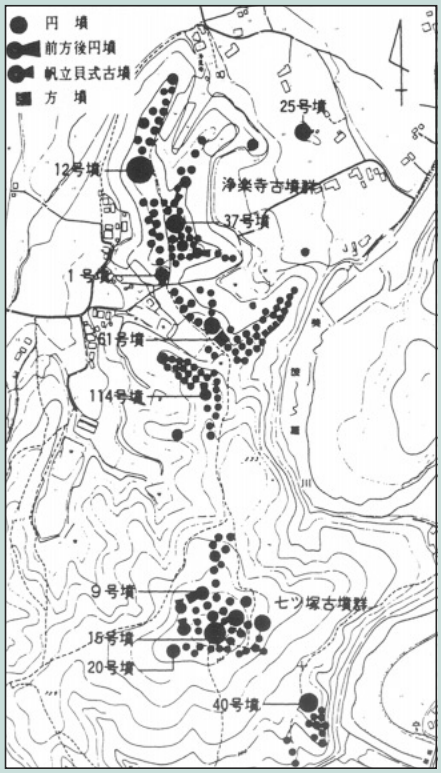
矢谷古墳出土特殊壺・器台

史跡「浄楽寺・七ッ塚古墳群」（広島県立みよし風土記の丘内）

丘陵上に分布する古墳群で、中国山地における群集墳の典型です。浄楽寺古墳群は丘陵の下手北西半に116基が分布し、径45m、高さ6mの円墳を中心に径10～20mの円墳が丘陵上に群在しています。円墳のほか帆立貝形古墳2基、方墳4基を含みます。七ッ塚古墳群は南東上手の丘陵頂部付近に、60基が分布しています。全長27mの前方後円墳や径31.2m、高さ3.8mの円墳、さらに横穴式石室を含みます。古墳時代中期～後期（5～6世紀）に形成された古墳群（古式群集墳）です。

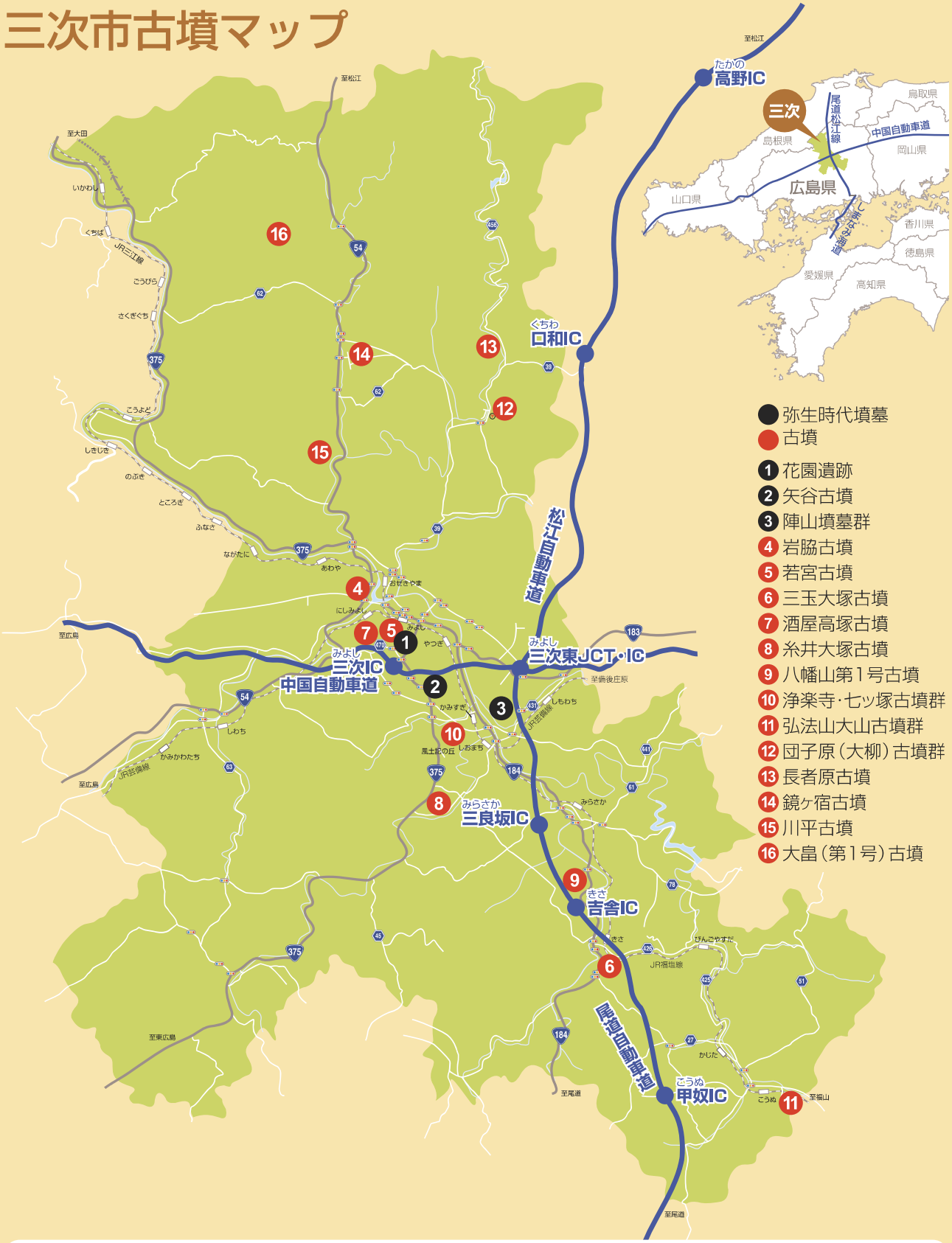
七ッ塚古墳群

浄楽寺第12号古墳



浄楽寺・七ッ塚古墳群

三次市古墳マップ



発行年月日　平成29（2017）年3月

資料・写真提供　京都大学総合博物館
広島県立歴史民俗資料館
株式会社菁文社

編集・発行　三次市教育委員会
〒728-8501
広島県三次市十日市中二丁目8番1号
TEL:0824−62−6191

印　刷　三星舎印刷有限会社

表紙写真　糸井大塚古墳（帆立貝形古墳）・緑岩古墳出土馬形埴輪（広島県立歴史民俗資料館蔵）
酒屋高塚古墳出土画文帯神獣鏡（京都大学総合博物館所蔵）・三玉大塚古墳出土短甲